

## (2) 東北



東北地域では、景気は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含みとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

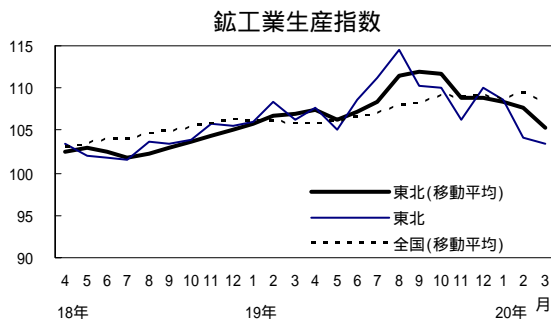
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年2月）	今回（平成20年5月）	
景況判断	このところ持ち直しの動きが緩やか	持ち直しの動きに足踏みがみられる	
鉱工業生産	このところ横ばい	緩やかに減少	
雇用情勢	依然として厳しい状況であり、緩やかな改善傾向に一服感がみられる	依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きに足踏みがみられる	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

電子部品・デバイス、固定コンデンサやサーミスタ・バリスタは低調に推移したものの、モス型半導体集積回路や液晶素子、コネクタなどが好調に推移し、おおむね横ばいで推移している。食料品・たばこは、清涼飲料、生菓子、肉製品などが低調に推移したことから、減少している。情報通信機械は、外部記憶装置が低調に推移したものの、交換機や入出力装置などが好調に推移したことから、増加している。一般機械は、金型は好調に推移したものの、半導体製造装置や産業用ロボットが低調に推移したことから、減少している。電気機械は、蓄電池が前期の反動で低調に推移したことから、減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電子部品・デバイス	19.3	3.1	0.7	2.8	12.4
食料品・たばこ	12.9	4.0	6.4	4.3	20.4
情報通信機械	11.6	0.0	4.5	7.6	54.3
一般機械	8.6	7.2	13.0	17.2	3.2
電気機械	5.8	4.4	5.7	4.4	36.5
鉱工業	100.0	2.9	3.1	3.8	3.7

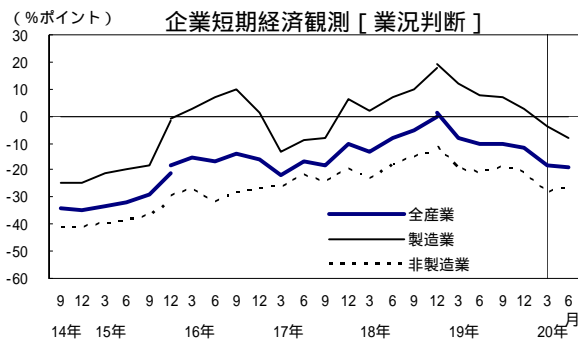
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

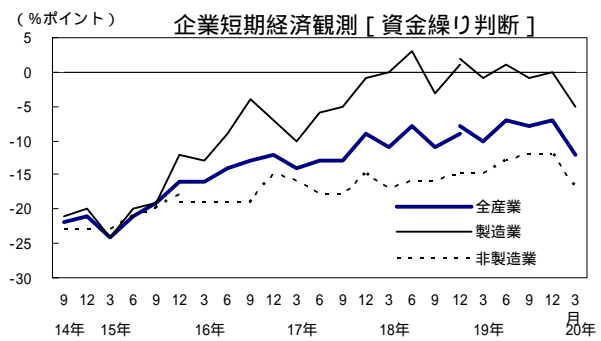
- (備考) 1. 季節調整値。東北の最新月は速報値。  
 2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。  
 3. 東北は12年基準、全国は17年基準。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断も「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

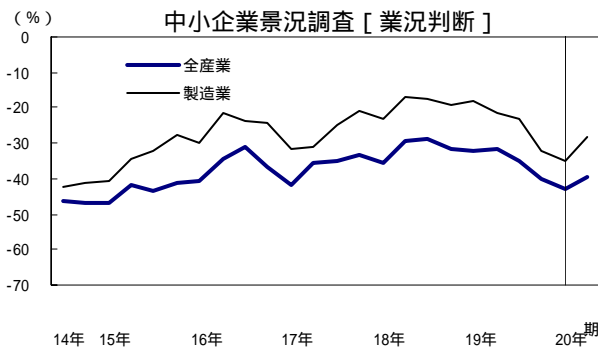
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年6月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年期は見通し。

### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

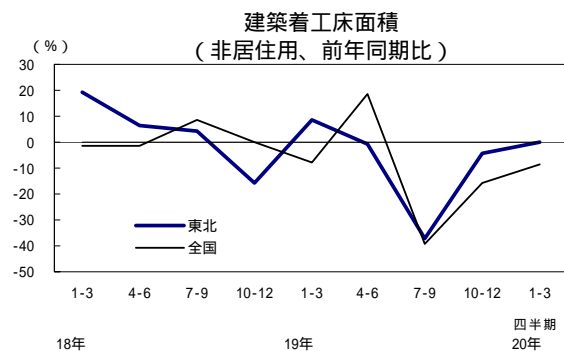
「受注量の前年比での減少傾向が3か月間続いている。景気の悪化に伴い、交際費、広告宣伝費の圧縮が図られている(出版・印刷・同関連産業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

### 企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績見込み	20年度見込
全産業	42.2( 0.6)	30.6
製造業	68.3( 0.6)	39.0
非製造業	10.2( 4.8)	1.1

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含みとなっている。

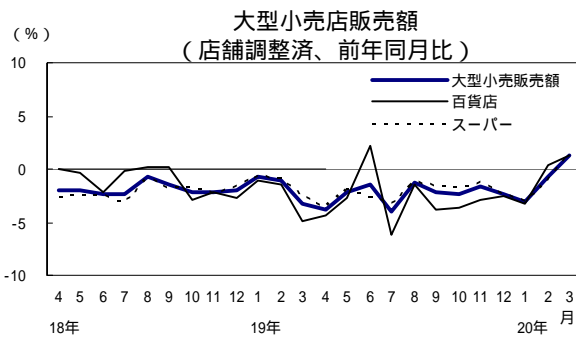
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、物産展などの催事により飲食料品が好調であったものの、上旬の高温の影響などからコート等冬物衣料が振るわず前年を下回った。2月は、低温の影響で春物衣料が振るわなかったが、バレンタイン商戦や酒が好調で前年を上回った。3月は、中旬からの気温の上昇により春物衣料が好調で、飲食料品も生鮮食品、ホワイトデー関連の菓子等が好調で前年を上回った。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の4月の売上高は前年同月比で2.7%減となっている。

スーパーは、肉や酒などの飲食料品の動きは堅調であったが、衣料品は全般的に気温が低かったため春物が振るわず、家庭用品も薄型テレビなどの家電は好調だったものの全般的に振るわなかったため、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

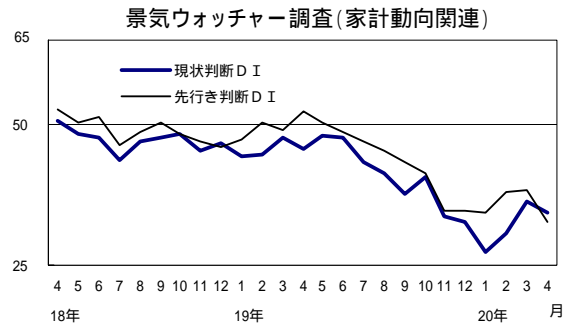
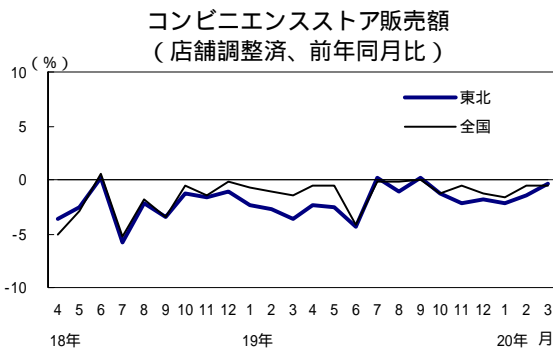
「耐久消費財も「良い物」が売れず、割安感のある商材のほうが売れる状況が続いており、まだまだ財布のひもは固い(住関連専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月
大型小売店	2.5	2.5	2.1	0.9
百貨店	1.7	4.0	3.0	0.7
スーパー	2.7	2.0	1.8	1.0
コンビニ	3.1	0.3	1.8	1.3
景気ウォッチャー	47.1	40.9	35.7	31.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

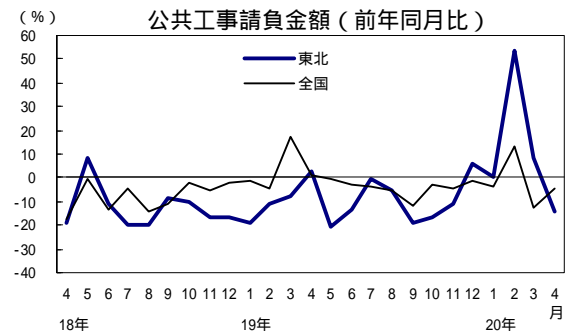
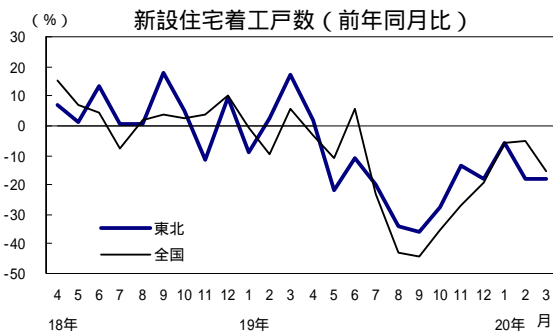
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

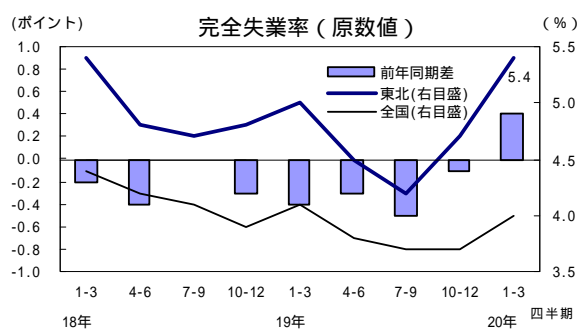
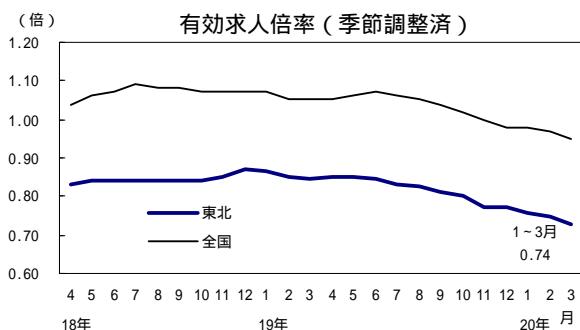


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

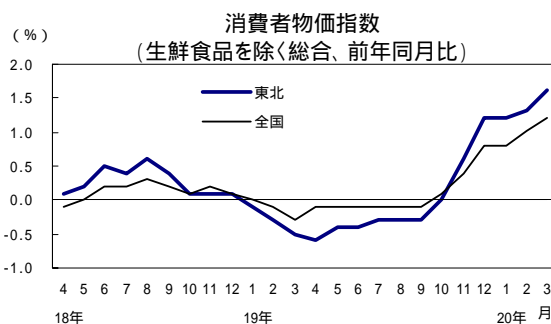
「県内では大手と言われていた建設会社が破産手続きに入るなど、失業者が増えている(職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月	20年4月
倒産件数	250	218	242	264	91
(前年比)	6.8	14.5	8.0	13.3	21.3
負債総額	1,411	611	810	951	467
(前年比)	96.0	24.6	18.9	4.8	54.4



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・団塊世代のリタイアに伴うスーツ需要の縮小、及び団塊ジュニアである30代の買い控えが顕著になってきている(衣料品専門店)

<先行き>

・ガソリン暫定税率の期限切れで官公庁事業の発注が停止されており、今後の動きによっては建設投資そのものの減少が見込まれる(建設業)。

